

# 太 白 山

(令和3年 春号)

宮城県さわらび学園

〒982-0215

仙台市太白区旗立2丁目4-1

TEL : 022-245-0333

FAX : 022-245-0515

<http://www.pref.miyagi.jp/sawarabi/>

学園ホームページもご覧ください

## 「新年度挨拶」

園長 平間幹夫

4月に入り園長2年目となりました。今年度もどうぞよろしくお願いたします。

4月は一年の中でも特に新しいことが始まる月です。学校では入学式、会社では入社式があります。学園でも異動による新しい職員の紹介があるなど忙しく、緊張する時期でもありますが新しいスタートを切りました。

さて、新年度に入ってここでみなさんに4文字熟語を紹介したいと思えます。

それは「雲外蒼天(うんがい そうてん)」です。

単純に読むと「雲から外に抜け出せば、そこは青い空である。」ということになります。雲は困難を表し、蒼(そう)は青い色を表します。天は空のことです。

意味としては、たとえ困難が立ちふさがっても、努力を続けることで乗り越えられる。つまり、苦しい状況であっても、あきらめずに努力して取り組めばいつかは良い方向に向かうということことです。

これを座右の銘やスローガンにする人もいます。私の今年度のス

ローガンはこれにしようと思えます。学園の子どもたちも、何か苦しいことや困難にぶつかったら、雲外蒼天の気持ちで取り組み、あきらめずに頑張ってくださいと思います。

新型コロナウイルスの終息はもう少しかかりそうですが、感染予防策をしつかり取って、これからも分教室、児童相談所、保護者や地域みなさんと協力しながら子どもへの適切な支援を行ってまいります。

## 「二年目に思うこと」

分教室教頭 太田博文

旗立分教室に赴任し、一年が過ぎました。

様々な事情や課題を抱えて自立支援施設に入所し、分教室に通学している児童生徒と日々向き合っていると、それぞれの良さが見えてきます。しかし、社会的・福祉的支援を必要とすることに変わりなく、その支援にどれだけ多くの人たちが関わられるかで、児童生徒の未来は大きく変わるのではないか、と実感しています。

「人それぞれに花あり」という言葉があります。分教室で例えてみると「人」は児童生徒、「花」は児童生徒の持っている良さや可能性になります。

児童生徒の可能性には、花の色や形が違いうように誰一人として同じものはありません。

分教室では、まず、授業に真剣に取り組む、「知恵の花」を咲かせられるように支援しています。花が根っこから水や養分を吸い上げるように、個々の学習能力に応じた授業を展開し、日々の学習から新しい知恵や考え方を吸収できるよう丁寧に支援しています。また、陶芸活動、学童農園活動、生徒会活動、野球活動など、一年を通して、花を咲かせられる場所を設定しています。児童生徒に必要な生活体験や社会体験を通して、成功体験を積み重ねさせるためです。

花には知恵だけではなく、いろいろな花があります。桜や向日葵のように、人目を引く花もあれば、かすみ草や福寿草のように、じつと見ていると良さが分かってくる花もあります。それぞれに良さがあるように、咲く時期や育つ場所、環境が違う中でも、児童生徒が輝ける力を秘めていることに気付かされます。

また、花がたくさん集まると、お互いを生かし合って、一つの美しい集団の花束にもなります。児童生徒一人一人の課題は深く大きいいため、花束のよ

うな集団になるには時間を要しますが、社会で生きていくためには身に付けなければならぬ力でもあります。集団の中でも、自分の良さを知り、相手の良さや考え方を認めながら、集団の中でも活動（生活）できるような根強く支援を続けています。

これから先、児童生徒がどんな苦しい時があっても、倒れそうになった花が立ち直れるような社会になってほしいと強く願うようになりました。そのためにも、今、近くで関わることができる教師（大人）が、社会の形成者の一人として必要な支援を理解し、対応することが大切です。児童生徒が家庭や地域、原籍校に復帰した後も、前を向いて人生を歩めるよう、引き続きさわらび学園と連携して取り組んでいきたいと思えます。今年度もよろしくお願いいたします。



## 「想像することの大切さ」

指導班長 田中佳二

子どもたちは生活の中でさまざまなことを発信している。時には、反抗的な態度で、イライラして職員を煽る言動で、何となく元気のない様子で、などなど、「これは何かあるな」と思わせる雰囲気や漂わせる。でも、ストリートに自分の気持ちを披瀝することはあまりない。

「僕は、自己肯定感が低いのです」「もつと親に甘えたかったし、受け入れてほしかった」「いつも誰かと比較されて、いつも自分のせいにされて悔しかったです」など、職員が想像するような自己分析を語れることはない。子どもたちの今の行動、言動の真の意味（目的）はどこにあるのか。そもそも、これがわかってほしいからこの行動をとるといった明確な動機を自覚している子どもはいないと思うが、私たち職員の役割は、それを想像し、「こんな気持ちなのか」と問いかけ、子ども自身に気づきを促すことにあるのではないかと思う。子どもたちが今の自分の気持ちを知ること、次の行動を準備することにつながり、それがプラスの体験に、そして自信につながっていくことになると思う。

そのために、その子どものことをたくさん想像すること、想像するためにこれまでの生活歴を知ること、そして最も大切なことは、今の生活を通して「関係性」を育んでいくことだと感じている。発信を受け止め、解釈し、それを共感し、双方向のコミュニケーションをとり、「受け止めてもらえた感」を実感してもらえたら、それが私たち職員の張り合いにつながっていくはずである。

## 「広瀬寮職員として」

広瀬寮長 石黒勝秀

令和3年度の4月より、広瀬寮長の業務を引き継ぐことになりました。平成から令和にかわった最初の年に学園に3回目の異動となり、配属された広瀬寮では3年目となります。振り返るには早いですが、学園にきてから、もうそんなに経ったのかというのが実感です。

今年度、4月の時点で広瀬寮には4名の児童が在籍しています。配属されている職員の異動も1名で、大きな動揺なく今年度のスタートをきる事ができました。

寮生活では、日々泣いたり笑ったり、賑やかな生活です。良いことは褒め、

良くないことについては注意指導を行い、互いの思いを伝え合っています。その中で、児童が今までできなかったこと、やろうとしなかったことを自分の課題として捉え、少しずつでも自ら取り組む場面は増えていきます。その場面を目にした時や、他の職員から耳にした時には、嬉しい気持ちになります。学園に入所となった児童は、それぞれ抱えている事情があり、課題克服に取り組んだ後に、社会生活に参加していくこととなります。困った時には、相談することや適切な支援を受けることにより、困難を乗り越えてほしいです。寮での集団生活は大変なこともあります。寮での生活がいずれ児童の何かしらの力になるよう、そして児童が前向きにとりくめるように関わる支援者と連携して、日々児童を応援していきたいと思えます。これからもよろしく申し上げます。

## お花見運動会開催！

4月上旬、新しく来た先生方との交流を深める行事としてお花見子運動会が開催されました！毎年春に行われる恒例の行事ですが、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、種目の変更などをしての開催となりました。「勝ち負けにはこだわらず、新しく来た人を祝うためにみんなで楽しく」を意識して、子どもたちは楽しんで参加していました。子どもだけでなく、大人も楽しむことが出来たため、とても有意義な時間であったと思います。



## お花見運動会会作文

児童S

ぼくは、今日お花見運動会をして思った感想は、いろいろなことができて楽しかった事です。たとえば、パン食べ競争とか、あめくい競争や玉入れや、綱引きなど色んなことが楽しかったです。パンでは、欲しいのが取れたし、あめくい競争で小麦粉などあっておもしろかったり、すごく楽しかったです。それに子ども会でケンカやトラブル無く、新しい先生方と交流を深めました。楽しむことが出来たのでよかったです。なので今日は、準備などありがとうございました。またこういうのを願います。楽しかったです。

児童R

私は最初、お花見運動会に関して、あまり乗り気ではなかったです。それは、私が運動が苦手だからという事とスポーツという「競技」は顕著に勝ち負けが表れると思ったからです。しかし、最後は楽しく過ごせました。

私がこう思えたのは、全員がこのお花見運動会の目的である、「勝敗にこだわらずに新しく来た先生方との交流を深める」ということを念頭において活動できたからだと思います。

子ども会担当の児童や、発案から会場準備までは酒井先生や色々な人が関わって出来た会なので、新しく来た先生方にも楽しんでいただけたと思います。おそらく夏祭りなど1年間で、また子ども会企画があると思うので、次も楽しく参加したいです。



## 今後の予定

- ・七月一六日 授業参観・保護者会
- ・七月二九日～七月三十日 野外活動
- ・七月二一日～八月二四日 夏季休業
- ・八月六日 七夕子ども会

## 編集後記

新型コロナウイルスによる活動の制限はまだまだ続きそうです……。それでも子ども達は今できることを精一杯取り組んでいます。そんな子どもたちに元気をもらいながら、さわらび学園一同頑張っていきたいと思っています。今年度もどうぞよろしくお願います。

